



献血推進に向けた研修方法に関する研究

研究分担者

早坂 勤（日本赤十字社 血液事業本部）

研究協力者

井上 慎吾（日本赤十字社 血液事業本部）

松田 清功（日本赤十字社 血液事業本部）

里中 美晴（日本赤十字社 血液事業本部）

研究要旨

より安全な輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、日常からより有効となる献血推進を展開する必要がある。この10年で若年層献血者数が31%減少しており、将来に向けて若年層献血者確保が求められている。

平成27年度に全国学生献血推進実行委員会が中心となり献血者の意識等を調査するため、全国の献血会場においてアンケートを実施した。その結果を踏まえ、平成28年度に学生献血推進ボランティア（以下「学生ボランティア」という。）が同世代に対して「献血セミナー」を全国で累計94回開催し、2,943人に対し献血啓発を行った。

平成29年度は、継続的な目標を掲げて、都度実施した内容を検証し、組織としてPDCAをまわせられる体制をどのように構築していくか研究する。

研究目的

近年、全国単位、ブロック単位での学生ボランティアの研修体制は充実してきている。また、学生ボランティアがSNS（Facebook、Twitter等）を活用しての情報共有等も活発に行われ、取り組み事例等の情報の水平展開できており、各ブロックにおいて、充実した献血推進広報及び確保対策等が実施できている。

今後、若年層献血者が減少するなかで、学生ボランティアが自発性をもち企画を立案し活動できる場を提供することが益々重要となってきた。

平成28年度（10月～2月）から学生ボランティアが同世代に対し「献血セミナー」を企画、立案から行い、全国で累計94回開催し、2,943人に対して献血啓発を行った。実施内容についても実施報告書を作成し検証、分析、改善した結果を次年度に引き継げる体制とした。

平成29年度は、平成28年度に実施した内容を組織的にPDCAサイクルをまわし継続して同企画を実施できる体制の構築を目的とする。

研究方法

平成28年度全国学生献血推進実行委員会（1回）において、実施内容の検証等、平成29年度全国学生献血推進実行委員会（3回）において検証結果を踏まえ改善し、企画、立案、検証、引き継ぎを行い、全国学生献血推進代表者会議（1回）において企画の説明及び承認を得る。それを受けて、実施するために日本赤十字社が支援する。

1. 平成28年度同実行委員会
第3回：平成28年3月11日～12日
2. 平成29年度同実行委員会
第1回：平成29年5月27日～28日
第2回：平成29年8月25日
第3回：平成30年3月17日～18日（予定）
3. 全国学生献血推進代表者会議（以下「代表者会議」という。）
平成29年8月23日～25日
4. 第41回日本血液事業学会総会（以下「血液事業学会」という。）
平成29年10月31日～11月2日
※平成29年11月2日のシンポジウム（血液事業を支える献血者～若年層への献血構造改革～）の中で講演

研究結果

- ◆平成28年度第3回同委員会において、各ブロック（7ブロック）で実施した内容の報告等を行い検証した。
- ◆平成29年度第1回同委員会において、スライド内容・構成及び献血セミナーの周知方法の改善点等を洗い出した。（図1）スライドについてはブロックごとに振り分け作成した。（図2）また、昨年度の意見も踏まえ補足資料も併せて作成した。（図3）
- ◆代表者会議において、同企画内容の説明を行い継続して実施する承認を得た。また、引き続き開催した平成29年度第2回同委員会において、意見等を集約し、11月から2月末まで全国の学生献血推進協議

会等で取り組んでいくことで取り進めることになった。また、取り組み内容を評価、検証、分析するために「実施計画書」(図4)、「実施時のアンケート」(図5)、「実施報告書」(図6)等も改善点等を踏まえ作成した。今年度は、昨年度実施したアンケート(図7)において、①献血できる機会があれば献血してみたい(54%)、②自ら献血場所(献血バス、献血ルームなど)に赴いてみたい(21%)の肯定的な結果を得られたことから、受講者カード(図8)を作成した。

◆日本赤十字社では、この決定事項を踏まえ、全国の血液センターに実施するための通知を行った。

(平成29年10月27日)

◆第41回血液事業学会のシンポジウム(血液事業を支える献血者～若年層への献血構造改革～)の中で、同委員会委員長に講演を依頼し、学生ボランティアの目線から同企画についての取り組み状況等を報告した。

◆実施計画では、計画、立案までの期間が短期間ではあったが、全国で149回(平成28年度:110回)の実施計画であった。(図9)更に実施した内容は、各都道府県学生献血推進協議会等で結果報告、分析、検証、課題・懸案事項を纏め、ブロックとして、当該内容を更に取り纏め検討する体制を構築した。

◆平成29年度第3回同委員会において、同企画の結果をブロックごとに報告し、実施内容等の情報共有と課題・懸案事項を分析、検証する予定である。また、その内容を踏まえ、平成30年度新委員に引き継ぎ、平成30年度も学生ボランティアによる献血セミナーに積極的に取り組む予定である。

◆今までの課題・懸案事項は、学生ボランティアが実施した内容の検証等(PDCAサイクルをまわす。)を行い、次年度に引き継ぐ体制の構築であったが、同企画の実施を踏まえ、組織的に引き継げる体制を構築できた。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし



平成28年度実施した中での改善点 (事前提出)

1 スライドの構成等について

- ①書体、文字の大きさの統一感がない。
- ②アニメーションに統一感がない。
- ③グラフの見せ方を検討する必要がある。
- ④スライドの統一感がない。
- ⑤学生らしいスライドの方が受け入れやすい。

2 献血セミナーの内容

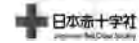
- ①献血セミナーが単調である。(アンケート結果)
→献血クイズのスライド追加
- ②地域の献血ルームの紹介の併せて行う。

図1

目次	
学推ってなに?	
けんけつってなに?	
献血の流れ	
献血の種類	
みんなの声	
献血の現状	

図2
スライド構成

平成29年度 統一スライド(補足資料)について



《採血基準》

献血基準
献血者の健康維持のために定められた基準です。

項目	基準
年齢	16歳以上27歳以下
体重	50kg以上
血圧	110/80mmHg以下
体温	36.5℃以下
ヘモグロビン	12g/dl以上
ヘマトクリット	38%以上
血小板	10万/mm ³ 以上
赤血球	400万/mm ³ 以上
白血球	4,000/mm ³ 以上
中性球	40%以上
リンパ球	40%以下
単核球	10%以下
血小板	10万/mm ³ 以上
赤血球	400万/mm ³ 以上
白血球	4,000/mm ³ 以上
中性球	40%以上
リンパ球	40%以下
単核球	10%以下

献血者、献血を受ける
受取者双方の安全を
確保するために定められた
基準に適合する方が
献血することができます。

《献血ができる場所》

献血ができる場所
献血のページより献血する日の曜日をクリック

献血バスまたは献血ルームの選択

日本赤十字社のホームページで献血
できる場所がわかります。
一度点検の献血バスや献血ルームに
行ってください。

《献血の種類》

献血の種類

- 全血献血
 - 200ml献血
 - 400ml献血
- 成分献血
 - 血漿成分献血
 - 血小板成分献血

献血器が安全で一人一人の献血量
を調整し、献血者の健康を
確保しています。

《献血ルーム》

献血ルーム

献血ルームは、献血者が安心して
献血できる場所です。

献血ルームは、献血者が安心して
献血できる場所です。

《輸血用血液製剤》

輸血用血液製剤

- 全血製剤
- 赤血球製剤
- 血漿製剤
- 血小板製剤

輸血用血液製剤は、献血者の健康を
確保するために定められた
基準に適合する方が
献血することができます。

《献血バス》

献血バス

献血バスでは全血献血
のみを行っています
見かけたら、ぜひ立ち
寄ってください。

図 3

平成29年度学生献血推進ボランティアによる献血セミナー実施計画書

(各ブロック血液センター用)				
〇〇ブロック血液センター 報告者職・氏名				
(参考)				
赤十字血液センター名	① 平成29年度 計画数	② 平成28年度 実施数	③ (①-②)	平成29年4 ～10月まで の期間に実 施した場 合は実施回 数を記載す ること。
			0	
			0	
			0	
			0	
合計	0	0	0	0

※行数は適宜追加すること。

図 4



平成29年度 受講者アンケート内容について

別紙4
献血セミナー アンケート用紙 (案)

各団体で自由にあいさつ文を設定してください。

Q1 あなたの性別を以下から選択してください。
① 男性 ② 女性

Q2 あなたが該当するものを選択してください。
① 大学生 ② その他 ()

Q3 献血の経験はありますか。
① 経験あり ② 経験なし

Q4 「学生献血推進協議会」という団体を知っていましたが、
① 知っていた ② 知らなかった

Q5 今回の献血セミナーはいかがでしたか。
以下の3つから○で選択して、その理由をご記入ください。
① 良かった。 (<理由>)
② 普通。 ()
③ 良くなかった。 ()

Q6 今回の献血セミナーを受けて、今後実際に献血に行こうと思いましたが、
以下の4つから○で選択して、その理由をご記入ください。
① 自ら献血場所 (献血バスや献血ルームなど) に赴いてみたい。
② 献血ができる機会があれば献血してみたい。
③ 献血ができる機会があっても献血を躊躇するかわからない。
④ 献血ができる機会があっても献血はしない。
(<理由>)

表裏に書きまます→

別紙4

Q7. 今回のセミナーの感想などございましたら自由にご記入下さい。

回答へのご協力ありがとうございました。

昨年度との比較をするために、内容は変更しない。ただし、追加項目は可とする。

表裏に書きまます→

図 5



平成29年度実施報告書(抜粋)

赤十字血液センター名	駅	実施日		実施時間	区分① 実施場所	セミナーの実施内容			備 考	区分② 主たる対象者			区分③ 附帯者	対象者及び附帯者合計					
		年	月			日	詳細	詳細を記入		映像の種類	講師	人 数			学年	人数内訳 (学年ごとに記載)	人 数		
山形県赤十字血液センター	1	2017	11	11	4.5	各団5分	大学・短大	国立山形大学農学部	講演、映像放映	ショートバージョン	その他※備考に詳細記入	学務系期間中、山形大学農学部献血推進サークルの2名が講師を務める。約5分ほどのミニセミナーを行った。	大学生	38	全学年	1年生3人、2年生3人、3年生2人	その他	26	64
岩手県赤十字血液センター	2	2017	11	17	15分	大学・短大	岩手県立大学	講演			その他※備考に詳細記入	学生ボランティア	大学生	8	1,2,3年生	1年生3人、2年生3人、3年生2人	その他	0	8
岩手県赤十字血液センター	3	2017	11	24	15分	大学・短大	国立岩手大学	講演			その他※備考に詳細記入	学生ボランティア	大学生	15	1,2,3年生	1年生7人、2年生5人、3年生3人	その他	0	15
青森県赤十字血液センター	4	2017	11	25	45分	赤十字施設	青森県赤十字血液センター	講演、映像放映	その他	その他※備考に詳細記入	青森県学生献血推進連絡委員会	大学生	8	全学年	1年生1人、2年生3人、3年生3人、4年生1人	その他	1	9	
山形県赤十字血液センター	5	2017	12	16	30分	その他施設	サークル総会会場	講演			その他※備考に詳細記入	山形大学ボランティアサークル「チーム選挙」の総会にてメンバーから同サークル員に対し発表した。	大学生	60	全学年		その他	0	60
秋田県赤十字血液センター	6	2017	12	17	30分	その他施設	秋田県立大学	講演			担当部門部長	総合学習	大学生	20	1~3年生	大学生1~3年15名と高校生	教員	1	21

必要最低限に必要な情報のみ報告する報告書に変更した。

平成30年度実施に向けて



「良かった点」、「反省点」、「スライドについて」、「次回に向けて」、「その他特記事項」を各ブロックにおいて取りまとめを行い、平成30年3月開催「第3回全国学生献血推進実行委員会」において、全国で実施した内容について評価し、平成30年度実施に向けて改善を行う予定である。

※ PDCAサイクルをまわせる体制が構築できた。

図 6

平成28年度献血セミナー後のアンケート結果(2/2)

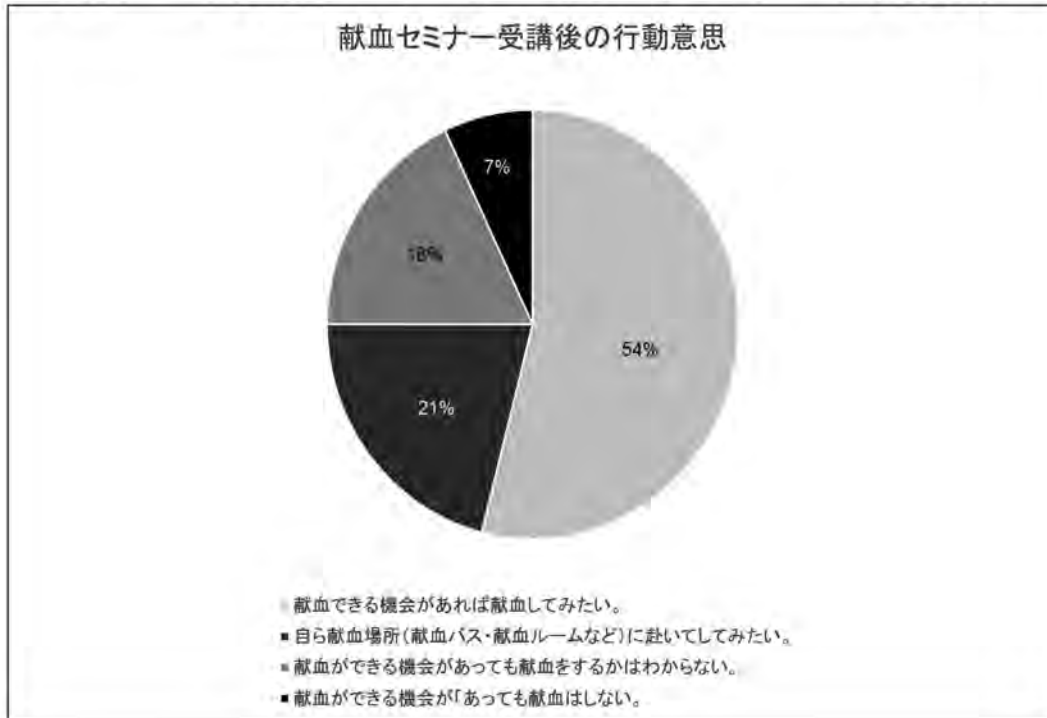


図 7

献血セミナー受講カード

献血セミナーを受講した学生に「献血セミナー受講カード」を配付し、献血時に受付職員に提出いただくことを考えた。



図 8



平成29年度の実施報告(中間報告)

内容		平成29年度※
実施時期		平成29年11月1日～平成30年2月28日
対象者		原則、大学生、短大生、専門学校生
実施状況		-
	計画数	149回
	実施回数	59回
	受講人数	1,964人
統一資料		-
	統一スライド	27枚
	補足資料	有
	動画	選択制
	アンケート	有
	受講カード	有
	実施報告書	有(1種類)

※平成29年度における「実施回数」及び「受講人数」については、平成29年12月31日現在の速報値であること。

図 9